

進 取

二学年通信

2014年10月15日(水)

Vol. 15

発行：福島県立相馬高等学校
第2学年

◎相馬高校「修学旅行」ことはじめ◎

いよいよ、ビッグイベント修学旅行まで1ヶ月を切った。

ところで、相馬高校の歴史の中で、修学旅行はいつどのように行われて来たのだろうか。

1898(明治31)年創立した年の10月4日に「職員・生徒、霊山一泊旅行を行う。」と記録にある。当時は観光施設はないので、訓練的なものであろうか。「修学旅行」という名称を使うようになるのは、1899年からで、「5月4日小高方面へ修学旅行ヲナシ6日帰校ス」と、この地区を巡っている。1902年4月27日、最上級の5学年が東京・鎌倉方面へ10日間にわたって修学旅行に行っている。この時の鎌倉での宿舎は当日交渉で決定している(かなりの無茶ぶりである)。その後、東京・鎌倉、あるいは日光、あるいは石巻・松島方面であった。1926(大正15)年には、旅行先が関西方面になっている。1934(昭和9)年からは修学旅行実施学年が4年生となる。1940(昭和15)年、文部省通達により修学旅行を制限されたため、猪苗代の翁島庵舎に宿泊し、磐梯山麓で職業軍人と模擬戦闘訓練をおこなった。この頃までは、4月～6月にかけて行くのが主だったようである。

戦争が終わり、1949(昭和24)年には、再開する機運が高まったが、生徒の投票により修学旅行が取りやめになっている。1950年、戦後初の修学旅行を春には3年生。10月に定時制女子部が、東京・江ノ島・鎌倉方面へ実施している。1951年は、江ノ島・鎌倉・熱海・箱根・東京方面。1952年は、学校側が東京・箱根方面に計画していたのに対し、生徒は関西・北海道を希望し、学校側の計画に同意が少なく中止(こんなことで中止になるのは、時代背景があるからだろう)。1960年は6日間で京都・奈良・大阪・熱海・箱根・東京(羽田空港・科学博物館・上野動物園)をまわり、旅費が4200円だったそうである(この年高卒程度国家公務員初任給5,900円、現在は140,100円であるから、今の費用の約10万円とそれほど変わらない感覚だろう)。上野駅では五色のテープで別れを告げる光景も見られたとか。この年は、新幹線が開通する前だから、往路(相馬ー東京ー京都)に2日間を要し、帰路は夜行列車を利用しながら移動していたようである。関西方面だけではなく東京近郊もその対象であるので、結構おもしろい(おおらかだ)コースである。修学旅行のコースが東京近郊から関西方面になっていく過渡期とも見て取れる。1963年ころからは関西のみになっている。ちなみに東京オリンピック開催の1964年は、日程が前倒しになっている。

修学旅行はもともと勉強の一環という立場である。よく考えてみれば、こうでもしなければ、国宝・重要文化財級の神社仏閣や仏像も見ない(盆や正月がなければ行かないのと同じか)。これらは奈良～室町時代の仏教のテーマパークであり、多くの人々が求めるように集まった(ディズニーやUSJに行く行動パターンに似ている)。また200名近くで移動し、同じ宿舎に宿泊するという体験も、こういう機会がなければ体験しない。ましてや高校を卒業すれば、この人数が揃う事もないだろう。スマホ(パーチャル)を離れて、本気で物を見てみよう・感じてみよう。せつかくの時間、有意義に使えるかどうかは、その主体者である人次第であろう(U SJで楽しむのと同じ事)。

2学年主任 小野田義和

～修学旅行の前に～

11月10日(月)～13日(木)に修学旅行が行われます。

旅行をしっかりと楽しむためには、事前の体調管理が、必要不可欠です。

今のうちに体調を整え、修学旅行を目いっぱい学び、楽しめる旅行にしましょう。



行事予定

10月

- 17日(金) 面接週間(～23日)【6校時カット】
*進路に向けての大切な面談です。自分の進路を考えておきましょう。
- 20日(月) 面接週間 6校時カット
- 21日(火) 面接週間【1・7校時カット】
献血(午後)
- 22日(水) 面接週間【6・7校時カット】
- 23日(木) 面接週間【5・7校時カット】
- 25日(土) **進研模試(全員受験)**



*自分が大学入試で用いる科目を確認し、学習しておきましょう。試験範囲が終わっていない科目もあるかもしれませんが、自力で学習をして高得点を目指していきましょう。

11月の主な予定

- 8日(土) 全統記述模試(希望者)
- 10日(月) 修学旅行(～13日(木))
- 27日(木) 2学期期末考査(～12月2日(火))

行事紹介

馬陵祭が行われました。

9月6日、7日に3年に一度開催される、公開文化祭の馬陵祭が行われました。

6日に行った仮装行列では、クラスそれぞれが工夫を凝らした衣装で相馬市を練り歩きました。沿道ではたくさんの方々の皆さんが、仮装行列を楽しんでくれました。



7日の一般公開では、天候にも恵まれ、多くの方々(1000部のパンフレットが午前中に無くなってしまいました)に来校していただきました。校舎内外のクラス企画も大盛況でした。

高校三年間の中での大きなイベントの一つである文化祭を無事成功させることができ、生徒のみならず先生方も疲れは見えましたが、同時に充実感も感じていたようでした。

進路講演会

10月10日(金)に1・2年生合同で進路講演会が開かれました。今回の講師は、ソプラノ歌手であり、ドイツでラジオDJを5年半務められた、下垣真希先生です。

講演ではクラシック音楽の素晴らしさや、これから生きていく上での姿勢などを、下垣先生の海外生活の経験を絡めながらお話ししていただきました。下垣先生は、「どうしても無理な壁に当たった時やもうダメと思う時でも、諦めずにチャレンジを続けてほしい」「新しいチャンスを生かして行ってほしい」と生徒にメッセージを送ってくださいました。

また、講演の中では、シューベルトの「鱒」やプッチーニのオペラから「私の大好きなお父様」、日本の唱歌から「ふるさと」、「七つの子」、「荒城の月」など日本国内外の歌を聞くことができました!オペラ歌手の生の歌声に、生徒たちは圧倒されていたようでした。

